

祭りと伝統



バスク人は、新しい生活と昔からの伝統を、うまく調和させています。

ベルチョラリ(バスク語の即興詩人)、ダンツァリ(郷土舞踊の踊り手)、チャラパルタリ(古式打楽器奏者)、アリハシヨ ツァイレ(石挙げ競技手)やセガラリ(草刈競技手)。こういった人々は、決して変わった存在ではなく、根強い伝統を生き生きと伝える今日のバスク人なのです。バスク全体に共通な郷土的なものと、それぞれの地方の独自性が組み合わせられて、歳時記を彩る数多くの祝祭が、さらに国際的な祭りが繰り広げられます。

カセリオまたはバセリアと呼ばれる農家で営まれてきた農業や酪農の家族共同体としての農村世界は、エウスカディの生活での重要性を無くしてきています。しかしながら、そのカセリオ文化は、その独自の精神を失うことなく、新しい時代にうまく調和したスポーツ、祭事、伝統の中にもみることができます。

バスク人は農村の日々の労働を、スポーツ競技に変えて楽しむ術を知っていました。何かに挑むことと名うての賭け事好きの傾向、この二つが一つになって、丸太を伐るという日々の重労働の一つを、二人のアイスコラリ(丸太割り手)が、太さがほぼ同じそれぞれの丸太の上に立ち、どちらが斧で早く切り終わるかを競うというおなじみの郷土スポーツに変えてしまいました。

同様に、牧草地の草刈や、重石持ち上げ、二つのグループが綱の端と端を持ってその力を競い合うソカティラ、つまり綱引きや、ポーリングに似たゲーム、そして忘れてはならない、素手、ラケット、セスタブンタ(左写真の籠状のラケット)などの種類があるスカッシュに似たハイアライといった競技、さら

に自分の勤のいい犬の助けを借りて羊の群れを誘導する羊飼いの技までが、制度化されたエリキロラック(郷土スポーツ)になっています。

エリキロラックは、単なる観光向けの見世物ではなく、今も数多くのファンを引きつけ、あらゆる村祭り、巡礼祭、農産市祭には欠かせないものです。祭りでは、また違ったバスク人気質を発見することができます。祭りの始まりには、まず、豊かな郷土遺産の賜物である伝統音楽とダンス。続いて、高く評価されている即興文学の一つの形を今に伝えるベルチョラリ。彼らが詠う詩は、太古からのバスク人の言葉バスク語を次世代へと伝えていくのに大いに寄っていました。

そして締めくくりには、昔ながらの手作り製品。牛のくびき、クチャ(木彫りの櫃)、マキラ(杖)などの木製品。これらの製品は、以前ほどの規模はないものの、今も木彫り職人グループが作り続けています。またアルギサイオラと呼ばれる紐状のろうそくを巻いた木彫りの板もあります。これは、かつては暗い世界の住人となった死者に手向けるために灯されたものでした。このバスク伝統文化の一つは、キリスト教が伝わる以前の時代に根を持つもので、その表現方法は、カトリック信仰を通して広く取り入れられていきました。

春：仮面とダンス

民間伝承は、エウスカディで繰り広げられる祭事、文化的催しの中に一年を通して見られます。このような催しが一番集中するのは夏ですが、バスクには、四季を通じて楽しめるものがたくさんあります。



独自の個性を 持った国



二枚の板

どんな祭りでも、エウスカディだけで見られる独自の楽器に驚かされることでしょう。チャラバルタというのは、非常に古い一種の打楽器です。二枚の長い木製の板とそれぞれ棒を持った二人の人間が無限のリズムと響きを創り出します。トゥリキティシャまたは全音階アコーディオンと呼ばれるものは、タンバリンと共に奏され、陽気さに満ちた音楽を奏でます。アルボカは、古くから伝わる吹奏楽器の一種です。中でもエウスカディでよく使われる楽器は、左手三本指で奏でる高音のチストゥで、同時に右手は小太鼓をたたきます。

高く掲げられる足

エウスカディの郷土伝承には、さまざまな民族舞踊の種類があります。ダンツァリと呼ばれる踊手が、男性グループだけ、または男女交じり合っただけのグループで踊りを展開します。



男性グループだけの際には、勇壮で壮観な剣を交差させるエスパダグンツァも踊られます。人目を引くソロの踊りといえば、アウレスクです。この踊りは、足を自分の頭の高さまで掲げるもので、歓迎や栄誉を授与するセレモニーで演じられます。

即興詩

ベルチョラリ(即興詩人)は、はるか昔からバスク語での口述文学の一形態を実践しています。その時与えられたテーマについて、ベルチョラリは、一人であるいは別の即興詩人と掛け合う形で、聴衆の前に、韻律とリズムの厳しい規律に従って、詩を即興で作っていかねばなりません。

想像、興行き、社会批判そして洒落冗談までもが、鋭い詩人たちの詠う詩句の後ろに隠されています。



遅いスポーツ

300キロ以上の重量の石を、肩の上まで持ち上げるのは、アリハショツアイレの



みが行なう妙技で、円柱、四角、長方形、丸形の巨塊を持ち上げることは、郷土スポーツの中でも特に目を引くもの一つです。郷土スポーツの他の分野には、アイスコラリが行なう斧での丸太割り、セガラリがする長柄鎌での草刈り、またイディ・プロバックと呼ばれる去勢牛の石動かしなどがあり、どの

オールひと漕ぎにかけて

十三人の漕手に一人のコックス。これが固定座ボートレースの乗組員です。彼らのレガッタは、夏ごとに、それぞれの地元ファンの情熱をかき立てます。このスポーツは、小さな漁船の漁師たちが他の漁船より早く港に着いて船荷の魚を売ろうと競争したことから始まったと言われています。

今日これら固定座のレガッタは、厳しい肉体的鍛錬を積み重ねなければならないスポーツです。"バンデラ・デ・ラ・コンチャ(コンチャ杯)"と呼ばれるこのレースの最終戦は、九月にサンセバスチャンのコンチャ湾で競われ、その時コンチャ湾は、漕手が水を掻く、一漕ぎ一漕ぎに一喜一憂するファンで埋め尽くされます。

スポーツにも伝統がうかがえます。

手で

バスクのペロータ(ハイアライ)は、土着スポーツの中でも一番広く伝播されたものです。イベリア半島の多くの

地、フランス南部、果てはアメリカ大陸まで広がり競技されています。ペロータ競技場は、バスクのどんな小さな村にもあり、いくつかの種類のパロータが競われています。その種類には、素手で打ち合うもの、人目を引くセスタブント(籠状のラケット)を使うもの、木のラケットを使うものがあります。見物客の賭けのやり取りが飛び交うのは、ペロータの試合に、欠かせない要素です。





アイスコラリつまり、丸太割りの選手達は、水平にしる垂直にしる、戸外での一労働に過ぎなかったものを、スポーツに変えてしまいました。

春にはイニャウテリアック(カーニバル)があます。楽天的なこの祭りは、大きな都市よりも中小規模の町村に、その精神が伝えられてきました。とりわけトローサ(ギブスコア県)のものが有名です。カーニバルの放縦さは、聖週間(イースター)の厳肅さには歩を譲ります。聖週間には、バルマセダ、ドゥランゴ、ガルダカオ(ビスカヤ県)、またギブスコア県のセグラやオングリアで、よく知られたキリストの受難と死の情景を繰り広げる催しが行われます。

ビトリア-ガステイスで行なわれるサンプルデンシオの太鼓パレードの他に、独特の趣をもった春を締めくくりにふさわしい、二つの祭りがあります。ミランダオラの鍛冶場に火入れするレガスピ(ギブスコア県)のサンタクルス祭(聖十字祭)と、少なくとも1478年から伝承されるダンスと仮面に彩られるオニャティ(ギブスコア県)でのキリスト聖体の祝日の聖体行列です。

夏：花火とジャズ

エウスカディは、夏自体が一つの祭りであるといっても過言ではありません。祭りの予定が、カレンダーにぎっしりと詰まっているのですから。

6月、ボルドン-ダンツァ(杖の踊り)とサンファン・デ・ガステルガチェ礼拝堂まで巡礼するトローサの守護聖人を祝うサンファン祭は見のがせません。また、レケイティオのカシャランカが踊られるサンペドロ祭、そして兵隊の装いをしたパレード(アラルデ)が中心となるイルンのサンマルシアル祭。イルンでは、隣のオングリア同様にフランス軍を破った歴史的勝利の思い出に、肩に銃を担ぎ赤いベレーを被った姿で軍隊調にその守護聖人の祭りを祝います。サンマルシアル祭のパレードも(イルン、6月30日)オ

ングリアのパレード(9月8日)も、ビダソア川流域の男女が参加します。

7月になると、プレソアやサントウルツィといった漁師町で、漁師の守護神カルメル祭(カルメン祭)が、アンツオラ(ギブスコア県)では、歴史的エピソードを彷彿とさせるアラルデ・デル・モロ(モーロ人のパレード)がおこなわれます。マグダラ(マグダレーナ)祭がおこなわれるエレンテリア(ギブスコア県)やベルメオ(ビスカヤ県)は活気づき、ベルメオではまた、イサロ島の所有権の獲得を祝う伝統行事も行われます。祭りはこれだけではありません。ビトリア-ガステイスでは、ブラウスの日(青年友人グループがそれぞれ異なったチュニックを着る)祭りや、ビスカヤ県とギブスコア県の守護聖人を祝う聖イグナシオ祭。中でもアスペイティアとゲチョの町は、その祭りでも有名です。

8月、祭りの熱気は、数々の祭事の到来でいや応なしに上昇します。ビトリア-ガステイスでは、ビルヘンブランカ(白い聖母)の祭り、ビルバオとドノステア-サンセバスチャンでは、セマナ・グランデの祭りがあります。

ゲタリアでも毎年、町の守護聖人の祝祭が行われますが、世界一周を果たした後にゲタリアに戻った"エルカノの下船"の再現を見る機会は、4年に一度しか巡ってきません。

エウスカディの夏は、またジャズフェスティバルなどフェスティバルのシーズンでもあります。ジャズファンは、7月におこなわれる三角形を描く地区で行われる3つのセレクションを好みに応じて選ぶことができます。まずゲチョで行なわれるヨーロッパ・ジャズフェスティバル。次に、ビトリア-ガステ

祭りから祭りへと 過ぎる一年



マリハイアとセレドン

マリハイアとセレドンは、別に血のつながりがあるわけでも、両者の間に特に関係があるわけではありませんが、どちらもよく知られた祭りの主人公です。また生まれてから数十年しかたないというのに、それぞれビルバオ市とビトリア-ガステイス市の守護聖人祭のシンボリックなものになってしまいました。

チュニックを着て傘をさしたセレドンは、8月4日、ガステイス市民に祭りの開始を告げるために、ビルヘン・ブランカ広場に下りてきます。巨大なマリハイアは、両腕を掲げ、8月15日の次の日曜日からアステナグシアと称されるビルバオの祭りをつかさどり盛り上げます。

この二つに挟まって、祝祭が続く中身の濃い8月の最後を、もう一つの県都ドノスティア-サンセバスチャンが飾ります。サンセバスチャンのサマナグランデは、ビトリア-ガステイスとビルバオの祭り落ち着いた趣があるので、リラックスして過ごしたい人にふさわしいと言えるでしょう。この三つの祭りに共通してあるものは、花火大会、屋外ダンスの催し、そして闘牛で、中でもビルバオが一番の伝統を誇っています。

数千もの太鼓

ドノスティア人の守護聖人の祭りは、1月19日の市の旗が掲げられ、そして下ろされる20日の真夜中まで24時間続きます。この間、太鼓を持ったナポレオン時代のエレガントなユニフォームの盛装隊、また白衣のcock姿の水差しを持ったいくつもの隊がドノスティア-サンセバスチャンの町中を



練り歩きます。

その時流れるのは、ライムンド・サリエギがこの祭りのために作曲したメロディーです。正午になると、5千人を超える子供たちの出番です。どの子も、愛らしい真剣さで、子供太鼓パレード(タンボラダ)に取り組みます。

仮装して

カーニバルは、ドノスティア-サンセバスチャンの鑄掛職人の仮装行列をその幕



開けに、三つの県都で開催されます。しかしながら、もっとも注目を集めるカーニバルが行われるのは、他の地、お祭り騒ぎの名声にふさわしいトロサです。おどけ祭りの伝統も長く、さすが、フランコ時代のカーニバル禁止の時期にも、春の祭りとして仮装し続けてきただけのことはあります。

アラバ県のサルドウオンド、サルセド、カンペソ、サルパティエラ、ビスカヤ県のマルキーニャ-シェメイン、ムンダカなどでも同

じょうに、この仮面の祭りを盛大に祝います。マルキーニャでは、カーニバルの主役は一頭の熊です。

櫃の上で踊って

一人のダンツアリ(踊り手)が魚籠を手にして、八人の船乗りの肩に担がれたクチャ(木の櫃)の上で踊ります。同業者組合から始まったと言われるこの珍しい踊りカシャランカは、サンベドロの祝祭日6月29日に、レケイティオで演じられます。またエウスカディで広く祝われる祭りとしては、浄めのががり火の夜と呼ばれる6月24日のサンファン(サンフアン)の祝祭があります。

5世紀にわたる伝統

6月には、キリストの聖体の祝日が、壮麗な聖体行列を伴ってオニャティ(ギブスコア県)で祝われます。



その日は、古くから伝わるコルプス・ダンツアックと呼ばれる聖体ダンスが踊られます。また聖体行列に参加する信徒会のメンバーは、キリスト、聖ミカエル、十二使徒をあらわす華やかな仮面をかぶります。





ブランカの祭りは白い聖母を祝って、8月の最初の週に"セレドン"の降下"と共に始まります。"セレドン"というのは、田舎のアラバ人の姿を模した人形で、手にした傘を落下傘のようにしてサンミゲル寺院の鐘楼からビルヘン・ブランカ広場に下りていきます。

スのジャズフェスティバル。このフェスティバルでは、あらゆる種類のジャズジャンルと数多くのスターの演奏が楽しめます。三番目は、ドノスティア-サンセバスチャンのジャズアルディア。この催しは、すでに長い歴史をもち、ほとんどの演奏が野外で行われるところに魅力があります。もちろんジャズ以外のジャンルとして、ポルトゥガレテの国際フォークロア・フェスティバル、サンセバスチャンの夏のクラシック音楽フェスティバル、キンセナムシカルもあります。

秋：パレードと映画

9月には、レケイティオのサンアントリン祭や、オンダリアの軍隊調パレードアルデを中心にしたグアダルベの聖母の祭りがやってきます。他にも、10月にエロリオで行なわれるエレボンビージョとして知られるパレードがあります。

毎年9月、ドノスティア-サンセバスチャンには、ハリウッドを思わせる雰囲気が漂います。このシネフェスティバルは、この種では国内唯一の国際映画コンペで、新しい製作者の手がけた映画を求める映画ファンを魅了し、世界的映画スターたちはその魅力を街の通りに振りまきます。

秋はまた、その他の文化行事も数多く催されます。

ビルバオではABAOのオペラシーズン、国際ドキュメンタリー・短編映画フェスティバルが始まり、ビトリア-ガステイスの国際演劇フェスティバル、

トローサの合唱コンクール、そしてドノスティア-サンセバスチャンの映画コンクール第二弾、しだいに人気を博してきているファンタジー・ホラー映画フェスティバルが行われます。

冬：太鼓と本

冬は、サントマスのフェア(市)と共に訪れます。この市では、農産物と農村の雰囲気が、ドノスティア-サンセバスチャン、ビルバオの二つの県都の中心にまで運ばれてきます。クリスマスイブは、オレンツェロがやって来る日です。オレンツェロは、太鼓腹を抱えた炭焼き人で、キリスト教伝来以前に起原をもつ地元のサンタクローシ的存在です。クリスマス期間には、ラバスティダ(アラバ県)の17世紀の舞踊、ラスカオ(ギブスコア県)のアストジョ(ロバ祭り)でマリアとヨゼフのエジプトへの逃避劇の再現なども行われます。

1月20日、ドノスティア-サンセバスチャンの町中に、太鼓の響きがとどろき渡ります。市の守護聖人の祭りのこの日、ライムンド・サリエギ作曲のメロディーは、一日中絶えることがありません。その二日後、オヨン(アラバ県)では、独特なカチの行列が催されます。

冬になると文化的な催しの数は減りますが、一年の間にバスク語で作られた本やディスクのショーウィンドとも言えるドゥランゴのバスクの本とディスク市は、紹介し忘れてはならないものです。

文化の国



豊富な種類の音楽、映画、ダンス、演劇。エウスカディでは、レベルの高いフェスティバルのおかげで、いつも文化にあふれています。ドノスティア国際映画祭、世界のスターや新作映画制作者の顔が揃う一方、ビルバオではオペラシーズンに向けた“ベルカント”の歌手たちが集い、またビトリア-ガステイスでは最高のジャズミュージシャンが会します。彼らはゲチョやドノスティア-サンセバスチャンでもその卓越した演奏を聞かせてくれます。さあ、楽しみに行きましょう。

ドノスティア サンセバスチャン	ビルバオ	ビトリア ガステイス	そして、さらに	
<p>映画の都 毎年9月この映画祭は、ドノスティア-サンセバスチャンを映画の街に変貌させてしまいます。絨毯の上を歩くスターたちのまぶしさ、入場券を求めて長蛇の列を作る映画ファン、コンチャデオロ（金の貝殻賞）賞受賞選考、興味深い映画上映、掘り出し物の映画、そのどれもが、独特の雰囲気をもたらします。</p>	 <p>オペラの都 ビルバオは、その長く叙情的な伝統からエウスカディのオペラの都といえます。</p> <p>ABAO（オペラの友ビルバオ協会）は、1950年代から延々とオペラシーズンを開催してきました。そこでは、最高のスターたちの姿もオペラの新星たちの姿も欠けることはありません。</p>	<p>ジャズの都 ドノスティア-サンセバスチャンとゲチョには失礼かもしれませんが、実際ビトリア-ガステイスは毎年7月に、ジャズのファンたちの熱い注目の的となります。1977年以来、ジャズ史上著名なソリストやグループがこのフェスティバルに名を連ねており、ジャズフェスティバル中でもトップクラスの一つにランクされています。</p>	<p>エウスカディの他の地域でも、一見の価値があるさまざまな文化行事が行われています。そのうちのいくつかを、御紹介しましょう。</p>	
 <p>キンセナムシカル（音楽の15日） 毎夏、ギブスコア県の県都ドノスティア-サンセバスチャンは、クラシック音楽熱で暑くなります。オーケストラ、室内楽団、オルガン、子供向け音楽、現代音楽、オペラ等のコンサートは、15日間とうたわわているにもかかわらず、ほぼ一ヶ月、音楽ファンの熱をあおります。</p>	 <p>シネビ：ドキュメンタルと短編映画祭 11月には、もっとも新鮮でフレッシュなオーディオビジュアル作品が、ビルバオのこの国際ドキュメンタル映画と短編映画祭で披露されます。</p>	 <p>演劇フェスティバル 秋になると、数多くの劇団がこの国際演劇フェスティバルに参加して、ビトリアの舞台にその最新作を繰り広げます。</p>	<p>アラリア 国際ユーモアフェスティバル（8月）</p> <p>ドゥランゴ バスクの本とディスクの市。その年にバスク語で製作された大部分がこの市に展示されます（12月）</p>	<p>但し書きのついた点で他のバスクのジャズフェスティバルとは一線を画しています。（6月）</p> <p>ポルトゥガレーテ 国際民俗音楽フェスティバル（7月）</p>
<p>ジャズアルデア エウスカディで開催されるジャズフェスティバルの中で、もっともベテランともいえるこのフェスティバルは、7月の終わりに催され、心惹かれるメロディーが、トゥリニダ広場、クールサルセンター横、野外で楽しめます。</p>		<p>NEFF: ビトリア-ガステイスのヨーロッパニューシネマフェスティバル 視聴覚フェスティバルとビトリアの国際映画祭が一つになったこのフェスティバルは、モンテエルモソ文化センター、プリンシパル、ビトリアの映画館で催され、街は国際映画の雰囲気に包まれます。</p>	<p>エレンテリア ムシカステと呼ばれるクラシック音楽週間（5月）</p> <p>ゲチョ 国際ジャズフェスティバル。"ヨーロッパ"という</p>	<p>トローサ - 合唱国際コンクール。世界でもレベルの高い合唱団が参加します。（10月） - 国際マリオネットフェスティバル（11月）</p>
				